

▶上は、先々代のころの集合写真(青木町の竹善にて)、下は現在の三州鬼瓦製造組合15軒の鬼師親子集合写真(森前公園)。(写真提供三州鬼瓦製造組合)



江戸時代から続く  
技術の継承者



▲鬼瓦製作実演中の加藤佳敬さん(写真提供三州鬼瓦製造組合)



▲「鬼みちまつり」では、ランプシェードの指導役を務めるほか、こどもたちに瓦粘土に親しんでもらおうとブースを設ける。鬼師と触れ合えるチャンス！今年の「鬼みちまつり」は10/15(土)の予定

## おにし 鬼師

「鬼師」という職業がある。鬼瓦をつくる職人だ。市内を歩くと「鬼〇」という看板を目にするが、あれは鬼瓦を扱う屋号である。一般家庭の屋根にのせる鬼瓦はもとより、京都や奈良の古寺の文化財級の鬼瓦の修復なども依頼されている。これまで、東京の歌舞伎座や、京都の知恩院の鬼瓦を請け負うなど、日本文化の貴重な伝統を守る役割を担ってきた。古くは、三州の鬼師が全国各地を渡り歩き、その技術を広めたとも聞く。

「10年勤めて一人前といわれています。祖父の時代だと、最初の3年は粘土すら触れず親方の手伝いばかりで、5年目ころからようやく小さな鬼瓦をつくらせてもらえたそうです。10年経ってやっと思いどおりに仕事ができるというのは、今もそう変わらないかな。」と、鬼師の山本英輔さん(三州鬼瓦製造組合副組合長・青木町)が教えてくれた。

厳しい職人の世界ではあるが、家業として続いてきたことから女性鬼師も存在する。最近ではこの世界に飛び込む若い女性もいるのだ。子どもたちにも、この職業を知ってもらおうと、展示会のほかにワークショップなどのイベントも積極的に展開している。「これからを担う鬼師として、伝統文化の鬼瓦が、もっと一般の方に知れ渡るように、新しい分野でインテリアとしても鬼瓦にチャレンジしたいと考えています。」と加藤佳敬さん(三州鬼瓦製造組合組合長・屋敷町)は語る。

全国に誇れる「鬼師」の伝統・技術、いつまでも語り継げるものになりたい。

# “撮っておき” の たかはま

## 【第67回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

# LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!(15ページ)

広報たかはま  
編集・発行/高浜市役所総合政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2  
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110  
http://www.city.takahama.lg.jp/  
電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。